



我
道
申
書
表
記
申
振
事

ル 3
3141





27
6

門 儿 3
號 3141
卷



雙古香友思東戲書

吳振子
英高友好

每改二乙卯正月春兩日思如不能忘書
山所類止
書之

昭和十年
七月九日
購求

養老年中記

養老八十歳なり及び春爾其能然不好し
昔も麦思ひ出しし其後の少食書其の所
持續後ふべし

受りて氏名野村名物ふ守保大寺養老連東
飯山に献上し不濟新名江中郭養老札出
寺ふ叶信ふ是哉姑免書知らし名残中唱ひし
左先 式曲尾 松月庵 大橋尾 藪養老
御邪染 利久庵 時南庵 茶久庵 歌久人
久科

杯之云ふ事名高し以外亦もあるや二八蕎麦
九穀子亦尔以中海あり以維又六蕎麦日印橋上
架出出—東海邊五十三段に東都上り休是し
下中仙道下向江戸上野東飯山不守平
二八蕎麦五穀宿にありし名ありそは斗り
甚記出可

此は即此名代の蕎麦取集りす

おつら馬は海苔の汁の蕎麦

道師之事此上不神がす又

是日所朝庭は延二八あり是れ名物とあり

保中直日而取中ス

以列戸奴とあり下東橋へ

甚記出可

名川

之日月光先...も不蕎麦のた

川河

加奈川

名物 旭蕎麦

大振左隣り甚し是れ名物也

保上谷

山吹や水より吹くせる鳥のしき

原
右京

浮し肉の原ふしし結核野

元市場白酒は名物有る

蒲原

油井

清養麦

ふし結核をよむ山盛る中やと志

油井養麦は人仕以ふる

若くは乃と来り吹け酒は沈

沖津

清光の関於切通し

山及船に云題ふし柳法おまぬ

ふしうる田子も浦津の夕暮り

和清をよむ山結上は守

江尻

府中

御香殿

巻居元は

賞古の形を考へて出る華の月

大平

鞠子

多々有る汁名物あり

園部

夜枝

鴻田

大井川出水のこを運出

金谷

小坂中山夜通の石

年秋路を又こぬ男の山をいふや

日汲

命多きに案ふ夜通中山あり

名物より心餅あり

掛川

小菊茶麦

唐木を森にすか案

ぬりかけを結まかて川を盛れり

花前抄むの味乃とふか

暮蕎麦はゆかすまを玉極すけ建ども

盛流のらゆりちらり春へ

乳をまら初ふ赤しをば流す

袋舟

見附

大新川船渡し

濱松

どろろさそ代

音羽屋安在門名

濱松秋音羽さそ代

越前守盛光安在門名

津板

船渡し

新井

御所

白須賀

二夕川

吉田

御油

赤坂

坂川

岡崎

名物 二日月餅

大正十一年九月

三日 地元の地味餅

箱

春麦物之岡清女部最良と云

是れ中ノ富貴殿ノ御式也

間方宿 大濱 今岡

当れ務と云 大濱村名物春麦あり

春麦亦下あけなくもあられなく

名物也下ありきと 徳来と云

春麦も老ふくは川北にば 一九

今岡村同新

地籍制

昭海

官

業名八七日に没し給

右八名古屋と云 津波に廻りてあり

業名

間方宿 曾田村焼燬名物

四日市

左に洋幣と云

石巻所

名物

龜山

養来春麦

先をたきや蒸籠の山をたつほふ

と名をふか備はよせ架木栲木り

そそれ茶椀目り共まふ米より

関

坂の下

ち山

水口

角はふ春をたふとあけぬ油すか丸入湯りしと出す

油土が入る出すはもとをきとをも

水口——くはふとそそれ

はたきふ蝶のうとちやえはの花

若く麦はす極れそふの嵐のう

石部

草津

勢田から橋渡り右近江湖水左近石山

大津

六角堂前

三條通

京都

大橋 小橋

柳の馬場

京都近商中

王城を不及申 諸宮の堂宇の原を引一見し
京都名物蕎麦不存ゆ 書字の事 不叶

毎日蕎麦此本裁記

夫七賢姑大一金金の事 金銭は酒の在る時焼味等
清香は色を令必ずあつたり先裁矢不強る 以着
麦粉を打打金健と述む先王強しゆ人ふ金
此述る裁錦名と毎日蕎麦と云
蕎麦切の喰む能はるる刻あり

京都の三角は沖村事案多利

近商中

大板より新名物所場蕎麦述名商し小見もある所
能也此一人あつてあつて何奈美一品此をの外不存
ゆへあるまじ

金銀裁述す徳ある蕎麦裁記

又親う考所場蕎麦切記

大板一見し江戸橋を以揚とて素船し三茶行
酒の宮 坂目社 茨原 住吉 摩耶山 本町三郎
小坂路以の操酒之減出

岩間よりきふ以布引去流



丹波に於て布打さす所あり

生田社

非田皇居に於て竹ノ宮森中一色に於て海

神振や又とわく世の梅花花

又丹波川楠の成公針北に於て

兵庫 筑嶋

平相岡後盛石塔并 松木小見入海新

新島新橋入る事古くよりなり 志世成

鎮誓寺

一の谷に寺一守に福祥あり 若木松年夜の朝礼

教盛の宝物其の山田に外有る

ぬの山にも青ふすし竹外

とと名にありて思ひに於て礼

上りの山が峰 心をもちて板屋し 教石ありし

源平のつが谷 一谷と二谷と河安徳皇内裏に於て今

其松小をり

三谷教盛に討死して一丈六尺の石五輪塔あり 蘇陀

六建

彌陀六日茶を建出茶を有る世の子に上る

御休に成る物沸盛春夜過院に色ふる玉識

盤を鉄かひのちりてをいあんをいしり祿一五九
郎判及有老ら思の酒を涼年暮るに谷老中
結んごか月が舟度何にともあは盛公御年比教
十六又亦もて以ふ

名物佛盛蕎麦

名物地喰にねむらふら盛須摩比浦

佛盛蕎麦秋喰ふも餘院六

蕎麦外や心當ふも作勢流御師

酒をたふ春ね光須摩比浦をかし

過意たは石波風をふく

是より京都にゆき少し休足考と降ふ支度しし寺
出立

倉摩丁寺北叡山持えしと要嘉原ゆきと傳教大師

和清ま松丸前能あふ寺

渭行船と盛給茶とこれ

坂本 山王 三井寺 近江公家茶坊を先と義仲寺

義仲石塔 色為公羽塔 史と石山寺此茶式部古海

勢田 小まし 長三十六間
大まし 長九十六間 乃玉

大津

子津

名物をわが解

右東海を

左中山を是に下向す

森山

間名籠 鏡村在るか？ 森山

鏡山はまゝ之奇に見る所ん

年終思ふ方名老やし此は秋

思ふ

武依

屯知川

高宮

松の多寄麦

亦在りてをわが解をぬる高宮の若ら

是より多賀大新寄 里を并ふに新見り

音尾布

音場

幾ヶ奇

松原

常盤宮寄麦

常盤尾松原に在るは左に山

古新の

常盤宮に在る松も是れはふかか得る

幾ヶ奇代表は茶へまの若ら

画もやふも吾とある若る夜の花

宿我系子行新場并近北長浪下境是哉寐之の境

と云ふ

今頃

不破の関あり

関ヶ原

古戦場は首塚なりふなり

香井

南宮部社

若柳り系今を松林とてそそ

赤坂

英江寺

河渡

加納

定命齋麦 若荷を徳田部と云 今主自終にて

或命若麦此事を終成吟味しゆもと 将同油類

改免出しをさふ入らうのま色清浄しふし等

上ノ小丸 御意ふ叶ふ免う可をく 上御云

為記に下 歌り若若のり加納下中 自悔する

新心きた肩成記らるる若の代の

友人中若者表紙味方をし

此等牙風珍物たるをくは下るるは

或人忌口

高橋奈鼻に之らへ事感出せる

柱之無竹節乃ふわら心若者

書確り能きし

精泥
太田
伏見
御嶽

赤坂津 謡板 今し上り板 是より板多し

栗粉餅名物

細久手

心と味 此水板 是の板をい

大久手

十三峠 名物 灰濃 灰焼餅 出茶屋あり

修行板 板西乃板をい 函行 石塔あり

大井

中津川

是より右古屋へ是あり 十四里や云 茶を板 古野板

夜坂御香所あり 員岳 佐濃玉院 勢下
伊勢太神院 御香請木出る光より木曾路

馬江

たゞ御香所あり 柱漸雅漸あり

多子

員久野

野尻

細原

小野水邊

一朝風水糸流しに 小野水邊

麻覚山 臨泉寺 浦清 舊跡あり

名物 麻覚蕎麦

蕎麦切や 木曾路 旅た山に板

鬼角のら 下上る 孔の志

寐覚と 月夜た あり

身より 風を あり

上松

旗あり

た石あり 谷木梢 あり

知らぬ あり

稿 澤

御園形

山村甚古術概御陣を女人洗花御取

宮の紙

森仲古紙跡を里南宮御取を云

藪 原

奥権北名代を尾味を里十丁跡上を

宮前より上るをよりより山領のあり

冬暮の

奈 古 井

名物指もの類あり

贊 川

本 山

御番訪有るは是迄十寺宿切木分殿を以て

洗 場

公羽等々大根入

着衣亦おたつる衆ふむまじくあるあり

塩 尻

諏 訪

湖北あり

和 同

寺難所あり

長久保

茅田

河月

八幡

志賀堂

志賀堂 志賀堂 志賀堂 志賀堂 志賀堂

塩名田

岩村田

小田井

追分

中山寺 中山寺 中山寺 中山寺 中山寺

畠山

草津 草津 草津 草津 草津

新井

新井 新井 新井 新井 新井

田新 田新 田新 田新 田新

坂本

宿入口 宿入口 宿入口 宿入口 宿入口

田島 田島 田島 田島 田島

松井田

左妙義山左に橋名山を流る

字中
板鼻

高崎

浪花蕎麦 柳林を以て

難波浦を以てし柳林と云

倉野

中河を以て名に高崎

新町

那奈川 上野武家公院

本所

小田川出流此谷を以て流る

國郡六部を以て高崎寺あり

深谷

熊谷

西宮陣屋跡に上寺立蓮生法師堂跡 熊谷寺と
證菩提寺建熊谷寺門前には有る地代を以て云

代 代を以て云

呼ぶり寺に八斗と名に教感院

對して出たる熊谷の里

此里は古堂 改修建たる今を以て山の中なり

宿ういなるは若葉や柳を茶もかもあるんぞんを略
四十七文

雑言

されハ咲花の以乃はにほんとちりぬるをわの
いられずつねをらむ是も生滅のかまればせに
ふのれくやまけふこ江をあさき心そゆ
めねみしやんふに界も酒をらしん得ぬれ
お美もせす十界はこをびく之たこ一心
よはおも

鴻の葉

楠川
上尾
大宮

武蔵下宮水川津波を

浦和
板橋

是より江戸本所を出る夫より上野廣も路夜ふ今
均玉の折夜を為麦進出と未より付風車
且お出し先達と京都登りて高失念と夜夜

春麦し一見う茶所所家貴誠は是れ喰ふし
れ多し是れ福も能く高を江中の中は誠
は未知る事妙は是れ在るは賢と有り而して
江中の中は誠は是れ有り

一或古夜社有る麦は成る以不

江中の中は誠は是れ有り
一或古夜社有る麦は成る以不
江中の中は誠は是れ有り
一或古夜社有る麦は成る以不
江中の中は誠は是れ有り
一或古夜社有る麦は成る以不

昔麦を食ふは是れは

江中の中は誠は是れ有り

江

